



知夫小中学校  
Tel 08514-8-2015  
Fax // 8-2312  
〒684-0100  
知夫村 1053-1  
【HP】 <https://www.chibumura.ed.jp/>

# 思いやりの心を大切に

校長 若本 剛

八月三十日から、八十一日間の二学期が始まりました。夏休みの経験を生かして、一人ひとり充実した二学期にしてほしいと思っています。しかし、全国では四十万人以上の方が、島根県でも千人を超える人が（九月一日現在）新型コロナウイルスに感染し、感染拡大が止まらない状況が続いています。三つの密を避けた生活をこれからもしていきたいと思っています。また、この夏、知夫村でも複数回の豪雨災害がありました。地球温暖化に伴い、異常気象が各所で起きています。私たちは持続可能な社会の実現に向けた生活を心がけることが大切です。

こういった大変な時だからこそ、この二学期、知夫小中学校の児童生徒には、相手を思いやる心を持って生活してほしいと思います。次のような話を始業式の日にしました。

これは三尺三寸の箸です。尺とか寸は昔の長さの単位で、今の単位なら三メートルぐらいになります。今回は、この三尺三寸の箸にまつわる話から、思いやりの心について考えてもらいたいと思います。

みなさんは地獄や極楽というどんなイメージを持っていますか？ 部活や陸上練習が地獄のようにつらいとか、温泉に入って極楽のようだとか使うことがあります。

ある日、お釈迦様は地獄にいる人たちの前にごちそうをいっぱい並べ、この箸を渡しました。ごちそうはこの箸を使って食べるのが条件です。地獄の人たちはこの箸を奪い合

- 【学校教育目標】**  
未来を切り拓く  
心豊かでたくましい  
知夫の子どもを  
育成する
- 【めざす子ども像】**
- ・自ら学ぶ子ども
  - ・共に生きる子ども
  - ・たくましく  
生きる子ども
  - ・ふるさとを  
愛する子ども

いごちそうを食べようとしています。ところがどうでしょう。この箸で食べることができませんか？ 誰もが必死に挑戦しますが口にごちそうは運べません。やがて地獄の人たちは痩せて、目がギョロっとした鬼のような顔になっていきました。

お釈迦様は、極楽でも同じように箸を渡してごちそうを並べました。するとどうでしょう、極楽の人たちはみんなごちそうをおなか一杯食べることができました。どうしたと思いますか。極楽の人たちは自分の前に座っている人に、この箸で「どうぞ」と言って食べさせ、食べさせてもらった人は「ありがとう」と言って、今度は違う人に食べさせていたのです。自分のことより先に相手のことを考えて行動したのです。

自分のいる場所を極楽にするか、地獄にするかは自分の心で決まります。自分のことばかり考えていたらその人がいるところは地獄です。周りの人を喜ばせようとする人がいるところは極楽です。周りを幸せにするから、いざれ自分も幸せになります。学校や学級でも同じです。「どうぞ」「ありがとう」の気持ちを忘れず生活して、みんなが笑顔になる知夫小中学校にしていきましょう。

二学期も、新型コロナウイルス感染予防にしっかりと取り組みながら、日々の学校教育に取り組みしていくこととなります。「できない理由ではなく、できる方法」を探しながら、前に進んでいきたいと思えます。保護者の皆様の学校教育に対する、ご理解とご協力をよろしく願います。

## 第五十回隠岐弁論大会

国語担当

九月七日、隠岐島文化会館で隠岐中学校弁論大会が開催されました。知夫中学校からは、三年生の さんが代表として出場しました。演題は「人は出会いで変わる」。島留学を通して様々な出会いがあった。そこから、自分らしさを大切にする、理想の生き方、人との関わり方など、様々な気づきや学びを得ることができ、「人は出会いで変わる」と確信した。これからも多くの出会いを通して成長していきたいという内容でした。堂々とした素晴らしい発表で、見事優秀賞を受賞しました。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、無観客での開催となりましたが、十三名の弁士はそれぞれに力強く自分の主張を発表していました。



第五十回 隠岐中学校弁論大会

## 原先生による合唱指導

音楽担当

九月十三日と十四日に原先生の合唱指導が行われました。小学部では三、六年生を対象に、歌う際の声帯の使い方や、声の出し方について指導していただきました。中学部では、小学部同様、声帯の使い方について、そして歌をどのように表現するのか指導していただきました。前半は子どもたちに緊張が見られましたが、原先生のユーモアのある指導でどんどん表情や声が良くなっていく様子がとても印象的でした。この調子で音楽会に向けて頑張っていってほしいです。

小学部四年

リズムや、のどから声を出すということが分かったので、次からは「あ〜」と高くきれいな声のまま歌いたいです。口を大きくあけるだけで、大きな声を出すことができたので良かったです。日常生活でも「こんにちは」や、「さようなら」等の言葉にも良い声を使いたいです。

小学部五年

今回は原先生の指導を受け、口を大きく開けて、大きな声で明るく歌うことができたので良かったです。高い声の出し方の指導や、「声帯」を意識することを新しく知り、意識することができました。これからは、原先生に言われたように皆で声をリレーのようにつなげて歌いたいです。

中学部三年

歌を歌う中で大切なことを色々教えてもらうことができました。お腹の使い方や姿勢について、声の出し方や息の続かせ方など自分ができていないことを多く知ることができました。また、今回の合唱指導でもっとも強くなったと思います。これからは特に声帯を開けてきちんと響くような声を出して音楽会に向けてしっかりと歌っていきたいです。



## 小学部三～六年 人権書道

人権・同和教育担当

九月三日と七日に人権書道を行いました。今年度は人権擁護委員さんをお招きし、人権について考えるワークショップも実施しました。「どんな気持ちで字を書けばいいのだろう」と子どもたちに投げかけ、それぞれの言葉にはこんな意味があるのではないかと、こんな気持ちになって書けばいいのではないかと、子どもたちで話し合いました。七日には「書家になれ」の講師をお招きし、書を仕上げました。一画一画を大切に、気持ちを込め

て書くことを教えていただきました。普段の授業とは違い、題字の意味を考えながら書き、人権意識を高められた時間になりました。

小学部四年

私は、人権書道で「平和」という字を書きました。さんとさんとさんが来てくださって、人権というものが大切なんだなと思いました。「平和」という字は豊かであって、けんかやいじめなどの悪いことがないことだと思って書きました。どの学年の題字も大切な言葉なので、書くだけではなく心の中で思って生活したいです。



### 小学部五・六年総合学習

小学部五・六年担任

小学部五・六年生の総合的な学習の時間では「知夫の今を知り、未来について考える」をテーマに学習しています。そこで、九月七日、島前高校生八名を招いて、今後探求していく詳しいテーマ設定を行いました。初めはアイスブレイクとして「ワードワフル」という会話型のゲームを行いました。一人だけ違う話題で話しているのは誰か？。考えながら自然に会話が弾み、次第に打ち解ける様子が見られました。

本題のテーマ設定では、事前に児童が調べていた、知夫の知っていること、興味があることを膨らませ、具体的に探求していく個々のテーマを絞ることができました。加えて、どうやって調べていくかの見通しを持つため、高校生にアドバイスをもらいながら学習計画も立てることができました。

高校生の若さあるアプローチのおかげで有意義な時間となりました。今後、十一月のふるさと学習発表会に向けて、探究活動がスタートします。

### 小学部五・六年 マダイ放流

小学部五・六年担任

小学部五・六年生を対象にマダイの放流体験を行いました。高学年では社会科の学習で「水産業のさかんな地域」について学習します。水産業の課題である、水産資源不足や担い手不足を補う一環として、今回、栽培漁業に携わることができ、魚を身近に感じる事ができました。ピチピチ元気がよくバケツの中を泳ぎ回る魚に、初めは怯えた様子の子どもたちでしたが、最後には慣れた手つきで放流することができました。十五センチ未満のマダイは、釣りあげてもリリースをすることも学習しました。放流したマダイが、安全に大きく成長し、知夫の海に戻ってきてほしいですね。



小学部五年

今回は、初めてマダイの放流をして、バケツに入れて海に放流することを学びました。五〇〇〇尾も数があると知ってびっくりしました。放流したマダイが大きく育つといいなと思いました。初めてだったけれど、楽しく活動できたので、またやってみたいと思いました。

### 中学部二年 職場体験学習

中学部二年担任

九月八～十日の三日間、職場体験を行いました。知夫の職場調べから始まり、職場体験のアポ取りなど、自分たちで行動し、無事三日間を終えることができました。一日目は初めてのことはかなり緊張している様子でしたが、二日目・三日目は、仕事や職場の方々に慣れて、カメラを向けると笑顔が見られました。仕事に向かう表情は普段見られない表情だったのでとても嬉しく思いました。この三日間を通じて、働くことの楽しさや難しさ、お金を稼ぐことの大変さなどを学ぶ良い機会となりました。ご協力ありがとうございました。

中学部二年

私は、職場体験で西谷商店に行きました。西谷商店には、仕事の大変さを知りたくて行きました。西谷商店での仕事は、かなり体力のいるものが多い、大変なものがたくさんありました。特に、荷物を来居に取りに行ったり、お酒やジュースの箱を倉庫に運び入れたりするのが一番大変でした。それでも、楽しく仕事をする事ができたので良かったです。

中学部二年

私は、職場体験で消防署に行きました。私が消防署に行くと大変だなと思ったことは、二十四時間勤務体制です。和室の部屋で寝泊まりをしますが、いつ出勤命令がでるか分からないので、安心して眠ることができません。深い睡眠をとってしまくと、出勤に遅れてしまい早く助けることができないからです。夜にしっかりと睡眠をとることができないことが一番大変なと思いました。

中学部二年

私は、観光協会に行きました。主な仕事内容は、いそがせ乗り場の清掃や、レジ打ち、レンタカー・e-scooterを貸し出すことです。私がこの三日間を通して一番嬉しかったことは、売店に買い物に来た方から、「ありがとう。」と言って頂いたことです。今まで感じたものとは違う嬉しさを感じることができました。私はこの三日間で、色々な経験を積み、とても濃い時間でした。



### 小学部三～六年 島前陸上

体育主任

今年度の知夫小学校の陸上練習は「全力・協力・礼儀」というテーマで行ってきました。六年生が中心となり、どの練習も全力で走り切った一カ

月でした。また、教職員も一致団結し、チーム知夫小として陸上大会に臨みました。

迎えた大会当日は、天候にも恵まれ、絶好のコンディションの中で競技が行われました。三年生にとっては初めての大きな大会であり、とても緊張している様子でした。しかし、高学年の子どものフォロワーのおかげで、精一杯力を出し切ることができていました。また、六年生にとっては最後の大会となりましたが、力を出し切り、いい表情で終えることができたように思っています。



今年度は、新型コロナウイルス感染症防止対策として無観客で行われましたが、出発前に横断幕を掲げてエールを送っていただきました。また、小学部一・二年生が中心となって、素晴らしい壮行式をしてくれて、選手たちも頑張ることができたと思います。本当にありがとうございました。

小学部三年

りく上大会では、はやく走れたからうれしかったです。一〇〇メートル走や六〇〇メートル走やリレーをみんなでがんばっていたから、すごいと思いました。はじめてのりく上大会だったけれど、アップも一人でできました。六〇〇メートル走は、がんばって走れたからうれしかったです。くんは、ずっとおなじペースで走っていたからすごいと思いました。来年は、わたしもくんみたいに走りたいです。

小学部三年

りく上大会をしました。一〇〇メートル走をして組の中では一位だったのでよかったです。三年生の中では七位くらいでした。次は一つでも上にいきたいです。八〇〇メートル走では五位でした。さいしよは四位でした。だけど、さい後の時にぬかれたので、次はぬかれずにがんばります。そして三位になりたいです。一〇〇メートル走もすこしの差だったから、もっと練習して三年生全体で一位になりたいです。そして十五秒で走りたいです。来年も走ることを頑張ってみたいです。